

自ら手をあげる力に拍手を

坂本敦子

企業研修講師として受講生と対面しながら実感することがある。個別に話を聞くといい考えを持っているのに、大勢の前で自分の意見を言えない受講生。せっかくチャンスがきているのに周囲の目を気にしてしまうのか、自ら手をあげて行動するのをひるんでいるようだ。そんな時、私は自ら手をあげた受講生に拍手する。立ち上がり、自分の考えをしっかりと言っただけでもその勇気と行動力を評価し、拍手する。すると拍手された人は連続して手をあげるようになり、その人の姿に影響されてか手をあげる人が次々増えていくという現象が起こる。また、研修が終わってから「あの時本当は手をあげたかったのに実際にはあげられなかった自分が悔しい」と言ってくる受講生もいる。

ビジネスの場では正解は一つではない。今何が求められているかという本質をとらえた上で、自分の考えを発表したり行動すること自体が評価される。知識だけではなく「自ら考えて動く力」が刻々と要請される。

ビジネスとはお客様に「ありがとう」といわれる価値（機能、品質、価格、納期、コミュニケーションなど）を提供する競争だ。暗記能力、計算能力、知識などは勿論必要なスキルの基礎となる。

それに加えて、勇気をもって提案したり、自ら率先して行動する力が大切だ。

企業が生存する条件は突き詰めれば「変化に対する適応力」である。変化は社長室ではなく、現場で起きている。その現場の変化の兆しや動きを知った者の英知を結集できるかどうかが鍵となる。気づいた人が発言する、提案するという行動力がこそ重要なのだ。

同時に多種多様な考え方を受け入れることや、相手を尊重し、思いやる気持ちをもって行動できるかどうかという「対人関係能力」も必要となる。このような能力はすぐには身に付くものではない。子どもはいつからみんなの前で手をあげなくなってしまうのだろうか？自分の意見を言えなくなってしまうのだろうか？正解は一つ、暗記しているかどうか問われる場を数多く経験することとの関係があるのではないだろうか？

学校教育は社会にでて本格的に自分の力で人生をスタートさせるための大切な準備期間だ。幅広い知識や学力とともに、繰り返しすることで身に付けられる「発言力」「行動力」「対人関係能力」を磨く場もさらに拡充させてほしい。

<http://homepage2.nifty.com/primetime/>

提 言



有限会社 プライム・タイム 代表取締役
人財育成コンサルタント
産業カウンセラー・心理相談員